

第2回 ヴィジュアル・シンキング・ストラテジー 対話型鑑賞ファシリテーター勉強会

日時

2012年 1月11日(水) 18:30 ~ 23:00

場所

東京都美術館 リニューアル準備室

実施目的

- 勉強会を通しヴィジュアル・シンキング・ストラテジー (Visual Thinking Strategies 以下VTS) の手法を用いた対話型鑑賞のファシリテーターの経験値を高める。
- 豊かで深い会話に繋がる作品、シークエンスの妥当性を検討する。
- 懇親を深めながら、今後の勉強会や実践の場の情報交換を行う。

実施内容

実践

- ファシリテーターを事前に決め、3作品のシークエンスを作りVTSを行う。
- 時間は1作品15分程度×3作品で計45分程度。
- 実施後、参加メンバーとディスカッション(15分程度)を行う。

参加者 6名

ファシリテーター

作品1

澤田知子

Bride

2007年

ラムダプリント、アルミにマウント

作品2

レメディオス・バロ

Useless Science, or The Alchemist

1958年

油彩、メソナイト

142 × 52cm

個人蔵

作品3

松山智一

Ladily

2006年

アクリル、キャンヴァス
約 67.2 × 約 100.8cm

対象設定

美術作品を見ることに慣れている層(VTS に多少慣れている層)

テーマ

- 人物と背景に共通点のあるもの(具象から抽象に繋がるシークエンスを意図)

シークエンスの意図

- 1 作品目: 写真
- 2 作品目: 物語性のある絵画
- 3 作品目: 抽象画

VTS ファシリテーター側の所感

あえて要素の少ない作品を最初に持ってきた。参加者が少ない場合、挙がってくる表現が少なく、(挙手による自発的な発言を促しているが)当たる順番が回ってきてしまう、という焦燥感に繋がる恐れがあり参加者の状況、対象、人数規模も作品選びの際に留意する必要があると感じた。また、『自分が話すこと』について訓練(特に発言者の要点理解)が課題と感じた。

参加者からの意見

- ファシリテーター側の発言が多くならないようバランスに配慮し、発言した内容を丁寧に拾っているという印象を受けた。
- 指し示しが丁寧で、受け止めている感と体全体の動きもあるので躍動感に繋がっていた。
- パラフレーズが何度か繰り返されるので、要領よく的確な表現ができるとより良い。
- 発言者の意見を聞くにあたり、「 さんから～～というようにご指摘いただいた」と畏まるより、少しくだけた表現を用いた方が親しみやすく参加者との距離感が近くなる。

ファシリテーター

作品1

中城芳裕

出現

2011 年

102 × 72cm

アクリル、木製パネル、額装

作品2

Joanna B. Pinnero

Untitled

2001 年

写真

作品3

奈良美智

Harmless Kitty
1994 年
カンヴァスにアクリル
150 × 160cm

VTS対象設定

テーマ

- 「子どもらしさ」とは何か？

シークエンスの意図

- 1 作品目: 話が膨らみそうな要素を含んだ物語的な作品。
美術館の公募作品という、著名ではない作品を入れた場合の反応を見るトライアル要素を含む。
- 2 作品目: 写真
- 3 作品目: 背景のない絵画(著名な作品)

VTS ファシリテーター側の所感

発言に対する応答の言葉が課題。発言に対して「ありがとうございます」と都度伝えると、話が一旦終わってしまう印象を受けるが、特に子どもが参加の時は勇気を持って発言してくれた事への感謝の気持ちを伝えたいという意図がある。他にも、「なるほど」といった相槌がファシリテーターとしての中立性に影響しないかが不安だが、相手の発言に対して“意思を受け取っている“という意図の表現について適切な表現や工夫が必要と考えている。

参加者からの意見

- 皆が共通に理解できる言葉で返しており、皆で鑑賞した、という一体感が生まれている。
- 誰の為の鑑賞なのかを常に意識し、発言に対する反応具合を、参加者に応じて返せると更に良い。
- 発言を言い換える事と、発言の一步先をイメージして促すファシリテートを課題。
「それはこういう事をいいたいのですか」というような補足に近いファシリテートが効果的な場合と、しすぎの場合多少発言がたたくなくても理解されて、解釈を進めてもらえる、という甘えを生み出してしまうので、そのバランスが難しい。
- 奈良美智の作品は有名すぎて難しい印象を受けた。その逆で作品そのものはシンプルだが、物語の要素が多く効果的、という声も挙がった。有名作品は対象に留意した方がよいものの、今回はシークエンスの最後にあることは効果的であった。